

# 確かな学力を支える「学びに向かう力」の育成

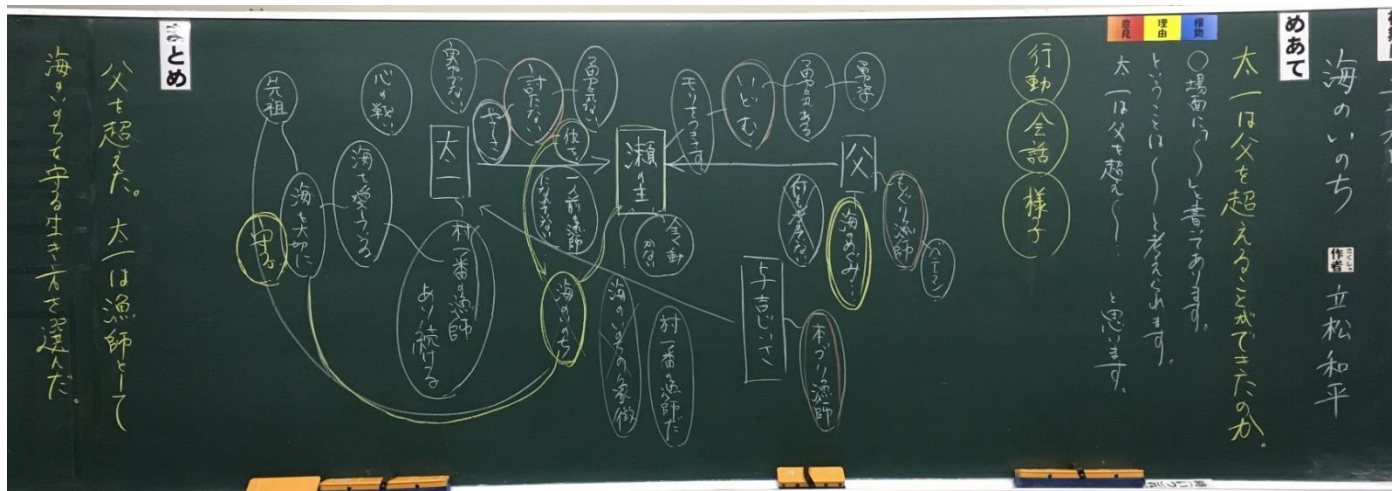
～読解力の向上を基盤とした学習指導を通して～

## 平成29年度 大津町小中学校共通実践事項

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示
- (3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用

11月6日(火)  
米多

10月26日(金)研究発表会 6年2組 国語科 感動の中心をとらえよう「海のいのち」実践



### 【成果と課題】

- 2項選択型のめあて（問題解決型のめあて）「太一は父を超えることができたのか」の提示やネームカードで意見を表示すること（右下参照）によって、自分の意見を持ち、学習に取り組むことができた。
- ウェビング図の活用により、児童の発言を整理しながら板書でき、作品からのメッセージに迫る大切な言葉をつかむことができた。
- 展開部で、ウェビング図→3点セットと思考させたが、3点セットで思考が止まる子がいた。つまり、ウェビング図と3点セットが繋がっていないかった。ウェビング図のみで思考し、発表でよかった。
- 父を超えたと読みを限定するのではなく、そこはオープンエンドにし、どんな生き方を選んだのかをまとめる方がよい。
- まとめだけでなく、振り返りを大切にしたい。自分の考えの変容を自覚させるため。終末の重要性。
- 子どもの発言を意図的につなぐ、問いかけ、思考をゆさぶる発問など、教師のファシリテーション力。



ネームカードで意見を表示させた。

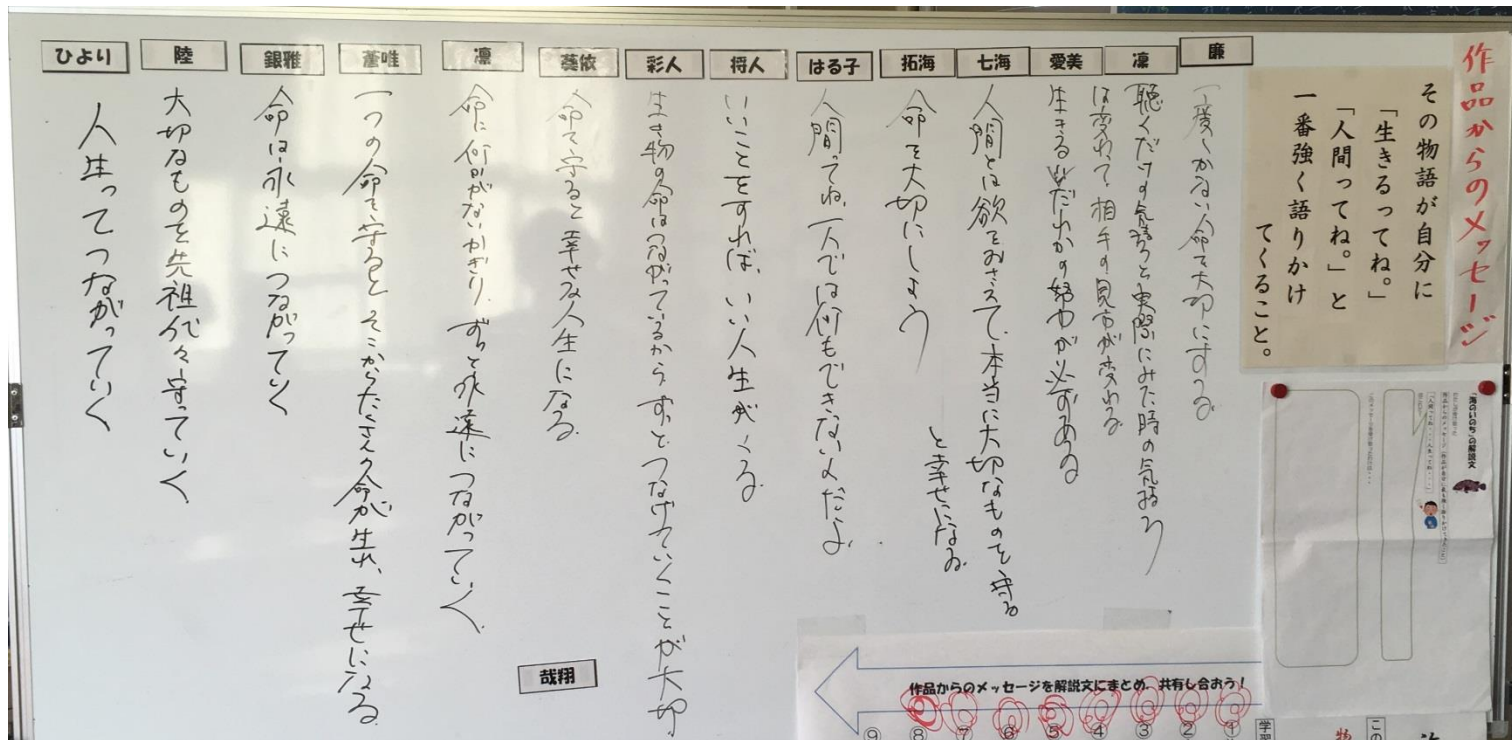
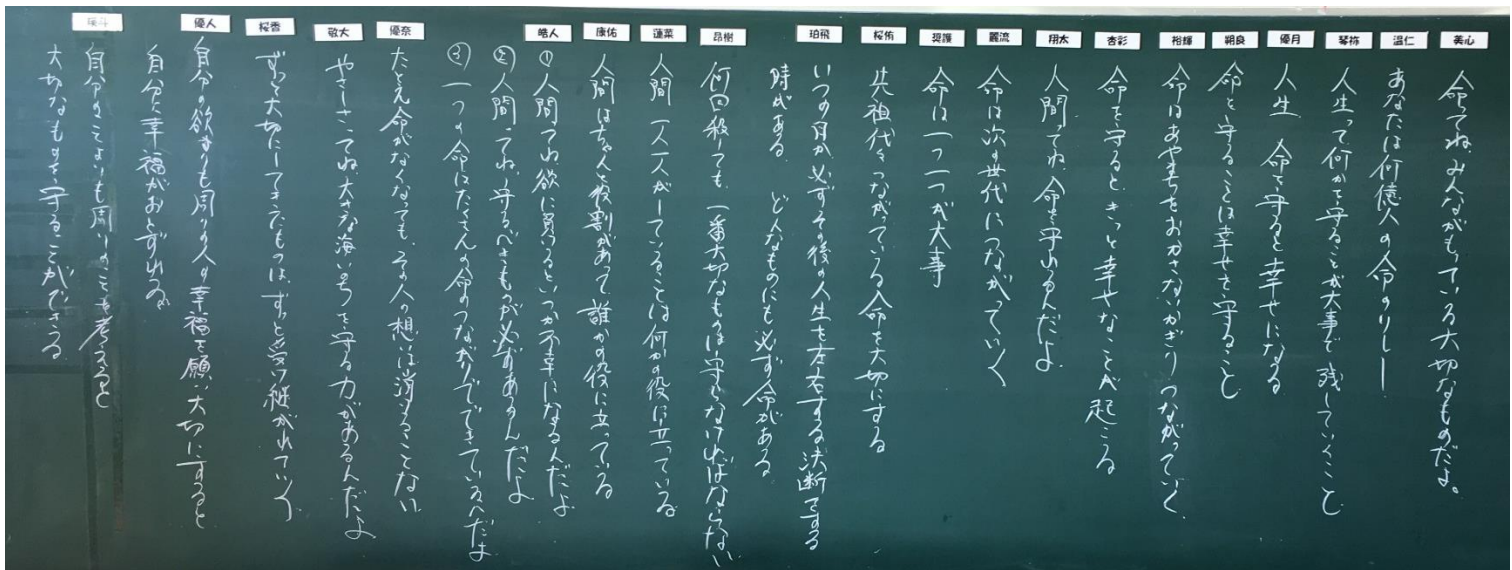


ペアでの対話の回数を増やし、自分の思考を深めさせた。

裏面に続く・・・

開発の授業ではありませんが・・・「海のいのち」9時間扱いの最後の授業です。作品からのメッセージと、そのメッセージを受け取った理由を解説文にまとめた子ども達。この時間は、一人一人受け取った作品からのメッセージを語り合い、全体で共有しました。1時間目の初読では作品からのメッセージを受け取れなかった子どもも多くいました。しかし、9時間の学習で、子ども達は作品を詳しく読み、思考し、感動の中心を捉えることができるようになりました。きっと、子ども達も「たしかにメッセージを受け取れた！」と自信が付いたと思います。また、友だちのメッセージを聞くことで、「なるほど、友だちはこのように受け取ったんだ。」「いろんな捉え方があって面白い。」「他の作品も読んでみたい。」と感じたことでしょう。

昨今、若者の読書離れが深刻化しています。国語の学習の最大の目的は「読書好きを増やすこと」です。子ども達が、物語を学習してよかったと思えるような授業を心がけたいです。その積み重ねにより、きっと、子ども達の学びに向かう力が育っていくと思います。



授業研をとおして、私が受け取った“開発からのメッセージ”は、「人生ってね、自分の思うようにはいかないんだよ。だから、常に学び続けるんだよ。」です。更に研究を深めて、子ども達全員が笑顔になる授業を創りあげていきたいです。サポートしてくださった先生方に感謝します！